

2 地域の概況

(1) 地勢

南渡島圏域は、北海道の最南端に位置し、総面積は 2,670 km²で、北海道の約 3.1%を占めており、神奈川県(2,416 km²)や佐賀県(2,439 km²)と同等の面積を有しています。

地形は、渡島半島の西部に連立する山並みが南下して途中東西に分かれ、一方は東走して恵山に至り、他方は西南に伸びて北海道最南端の白神岬に達していますが、中間に横津岳・駒ヶ岳及び大千軒岳が連なっており、函館湾を中心に扇状に広がって半島の東部は山地が海岸まで迫っています。

気候は、北海道の中では全般的に寒暖の差が少なく、温暖な気候であり、積雪量も比較的少ない地域ですが、夏期の降雨量は比較的多くなっています。

(2) 人口

令和2年国勢調査では、南渡島圏域の総人口は 35 万 9,223 人で、北海道の総人口 522 万 4,614 人の約 6.9%を占めています。

函館市、北斗市及び七飯町の2市1町の人口を合わせると 32 万 3,072 人で、圏域総人口の約 89.9%に達していることから、南渡島圏域では函館市とその周辺市町に人口が集中しているといえます。

将来推計人口(令和5年推計)では、出生数の低下などにより人口の減少が続く一方、老年人口の割合は増加し続け、管内人口は 2050 年には、ピーク時の 1985 年から 23 万人余り減少すると推計されています。

(3) 年齢三区分別構成割合

年齢三区分別構成割合では、全国、全道の傾向と同じく、年少人口割合(15 歳未満)、生産年齢人口割合(15 歳から 64 歳)が減少し、1995 年(平成 7 年)には老年人口(65 歳以上)が年少人口を上回り、2015 年(平成 27 年)には全人口に占める老年人口の割合は 30%を超え、2035 年(令和 17 年)には、40%を超えると推計されています。

【年齢三区分別構成人口の推移】

	年少人口 (15歳未満)	生産年齢人口 (15～64歳未満)	老年人口 (65歳以上)	総人口	前回調査からの 増減
1990年(平成2年)	83,195	309,825	62,059	455,184	—
1995年(平成7年)	69,108	302,633	75,485	447,255	△ 7,929
2000年(平成12年)	59,211	287,413	89,374	436,009	△11,246
2005年(平成17年)	52,226	268,591	101,375	422,301	△13,708
2010年(平成22年)	46,334	244,935	110,607	402,525	△19,776
2015年(平成27年)	40,774	216,907	123,151	381,620	△20,905
2020年(令和2年)	35,205	194,764	129,254	359,223	△22,397
2025年(令和7年)	29,115	176,283	126,666	332,064	△27,159
2030年(令和12年)	24,066	161,566	122,275	307,907	△24,157
2035年(令和17年)	20,737	144,767	118,041	283,545	△24,362
2040年(令和22年)	18,884	124,143	116,225	259,525	△24,293
2045年(令和27年)	17,184	107,438	110,982	235,604	△23,648
2050年(令和32年)	15,312	94,423	103,505	213,240	△22,364

* 総務省(国勢調査)、国立社会保障・人口問題研究所(将来推計人口:令和5年推計:2025～2050 年)

* 平成2年～令和2年は年齢不詳者が含まれるため、内訳を合計しても総人口に一致しない。

(4) 出生数

出生数は全道、南渡島圏域ともに大幅な減少傾向にあり、令和4年における南渡島圏域の出生数は1,524人で、平成2年の出生数4,103人から2,579人(62.9%)まで減少しています。

【出生数の推移】

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2022年
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和4年
出生数(南渡島)	5,333	4,103	3,705	3,329	2,880	2,634	2,323	1,744	1,524
〃 (北海道)	66,413	54,428	49,950	46,780	41,420	40,158	36,695	29,523	26,407

* 人口動態統計(厚生労働省)